

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症対応型共同生活介護事業
(ユニット名)	グループホーム花の里1
所在地 (県・市町村名)	長崎県諫早市福田町3316-3
記入者名 (管理者)	石丸 智英
記入日	平成 19 年 9 月 27日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの理念が、入居者にも分かりやすく定着している為、前の部分もいかした形で、独自の理念を作りあげている。	○	「グループホーム便り」に理念を掲げている。理念を掲げるだけでなく、その思いが伝わる様に活動していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り時に運営理念を声に出して述べる事により、意識をし、日々、実現に取り組んでいる。	○	掲げている理念に添うよりよい日々を提供していきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には、面会時や家族会等、機会ある毎に繰り返し伝えている。理念を掲げた「グループホーム便り」を毎月、家族に発行している。	○	理念は玄関、ホームに掲げている。地域の方が来た時、理念を見てもらい事業所の思いを伝えたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買物に出かけ、近隣の人達と挨拶を交わしたり話をしたりしている。又、行事の都度、案内を出し参加してもらえる様呼びかけ、働きかけ日常的に付き合いが出来る様に努めている。	○	行事以外でも日常的に遊びに来ていただける様にしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者と共に地域の夏祭りに参加したり、町内の自治会活動に職員が参加している。(地域清掃等)	○	こちらから出かけるばかりではなく、その後の交流として、もっと地域の方が遊びに来ていただける様にしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	中学生の体験学習やボランティア、民生委員の見学、学生等、実習生の受け入れを随時、行っている。	○	近隣には、地元の方がおられ庭先に季節の花を植えておられる。入居者と散歩をかねて出向き、昼間の一人暮らしの方の話し相手等、取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義ねらいを分かりやすく説明し、全職員で自己評価を行い評価の結果は、全体ミーティングで報告、話し合い改善対策をねり、実践につなげている。	○	職員の意識を高め、意見を交換し、ご家族にも理解していただける様に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、家族、入居者、事業所の責任者、計画作成者、看護師による会議を開催した評価に関する資料の添付はもちろんの事、家族アンケートに基づいた回答も行い家庭的な雰囲気の中で、話し合い1人1人より、意見が出され今後、1つひとつ積み上げて行きたい。	○	より多くの方にも参加していただける様に働きかけていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との接触の機会は、毎々あり、その毎に情報交換を行い活用してもらっている。	○	定期的な会議の中で意見のやりとりを行い良い物は、良い物として取り入れ、指導、伝達が行われている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修の機会あるいは、報告により職員の理解を深める様、努めているが未だ浸透していない。対応が必要と思われる利用者がある場合は、その毎、説明助言を行いながら支援している。	○	随時、必要に応じて、社会福祉協議会と連携していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修、研修報告により今まで疑問に思わずやっていた、特に言葉の虐待に気づかされ防止に努めている。	○	言動、身体虐待ゼロに取り組んでおり、安全、安心のある生活を保てるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約時、十分に説明を行い家族には、納得を得ている。</p>	<p>○</p> <p>見学に来られた時にもホームの事を分かっていただけの様に、分かりやすく説明をしていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満等を聞き、他のメンバー間で話合っている。運営推進会議等で意見を聞き運営の参考にしている。</p>	<p>○</p> <p>ホームでは、職員、入居者同士がゆったりと話しが出来る場を作っている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の状況は、月1回のたよりに記載したり、電話にて健康状態を報告している。金銭管理、異動については、面会時に報告したりしている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族の面会時、新しい職員を紹介している。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時、プランの説明時等、利用者に対する要望がないか聞いている。</p>	<p>○</p> <p>面会時の時間帯を今以上に長くとり、ゆっくりとした対応を行う。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>週1回の全体ミーティング、月1回の職員会議等で意見を出し、運営者、管理者等と話す機会がある。</p>	<p>○</p> <p>関係者の意見の中から、よりよい物を取り上げ、サービスにつなげている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>皆が協力しあい必要時、勤務交代を行なっている。</p>	<p>○</p> <p>利用者の状況に合わせて人員配置をしていきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員がやむおえず異動、離職をする際は、利用者にしつかりと説明を行なっている。又、新しい職員が入った際、利用者で紹介している。</p>	<p>○</p> <p>馴染みの職員が欠けても安心して生活していただける様に環境を整えていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回、独自の勉強会を開いている。研修後は、月1回のミーティングで研修報告を行っている。	○ 研修の機会を増やし、全体として質の向上に努めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会があり、この研修会に参加する事により同業者との交流、勉強が出来ている。	○ 定期的に行われる研修へ出席する事で、よい物を取り入れる様にしている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室もあり、気分転換が出来る様に取り組んでいる。	○ 慰安旅行や新年会を行い、職員のストレス発散の場を作っている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況を把握し、向上心を持って働き続ける為の声かけ等を行なっている。	○ 職員1人ひとりの特性を活かして、質の向上に努めたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の話を傾聴し、不安事、求めている事を把握し、理解する努力をしている。	○ 観察により場合によっては、職員の方から声かけを行い、相談にのる様にしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からのニーズを、職員全員が把握し、解決方法を考え、面会時、又は、電話にて話合っている。	○ 解決方法をいく通りか提案し、家族にとって対応しやすい事を選ぶ様にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	相談時、本人と家族の思いや状況等を確認し、地域包括支援セン ター、居宅介護支援事業所のサービスにつなげている。	○	他との連携を強めて対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	家事手伝い等、他入居者と共に行なってもらって、徐々に行事等、参 加する様にしてもらっている。	○	利用者の趣味、得意な事を把握し、施設内で行え る場所と時間を作っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事、家事手伝い、食事等、職員と共に行き共通したものを見出して いる。	○	忙しい時、特に共にの部分の部分が欠けてくる。常にゆとり を持った場面作り心掛けたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	面会時、電話連絡の際に日々の生活の状況、それに対するケアの方 法について説明をしている。	○	家族のニーズに対し、最適のケア方法について説 明をしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	誕生日、買い物等、家族と接点が出る様に方向付けをしたり、行事 の参加を呼びかけている。	○	普段、面会に来られない家族等にも、積極的に参 加してもらう様に声かけしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	本人の一番思い出深い場面を写真におさめたりして支援に努めてい る。	○	併設のケアハウスは、入居者のほとんどの方の馴染 みの場所、人であり身近な方との面会に努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	1人ひとりに全職員が声かけを行い日々、穏やかに過ごして頂く様、配 慮している。	○	職員がクッションになり、本人が感情のコントロール が出来る様にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	暑中見舞い、年賀状等により関係を大切にしている。	○	何かの縁でご利用された方なので、今後も関係を大切にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共に生活する会話の中で言葉、表情等からそれとなく確認し、困難な方は、面会時、家族、あるいは関係者から情報を得ている。	○	情報の中より、本人が以前やっていた事、好きだった事に重点をおいた声かけを行い、反応をみて会話につなげる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、利用時に本人、家族、サービス事業者から聴きとっている。利用後も本人、家族から聴きとりを行っている。	○	昔の生活歴と今とは、好みも違っている場合もあるので、それも踏まえて対応していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1人1人の生活のリズムを理解し、その日の変化を感じ取り、全体像を把握し、出来る事を見出しその方の把握に努めている。	○	朝の申し送り時、会議等で検討し、変化に対応したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時、利用時にセンター方式のシートに分かる範囲で記入をお願いしている。又、時にふれ意見を聞き介護計画に反映させている。	○	会議時、全スタッフで介護計画について意見を述べ、検討している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは月1回の全体ミーティングに図り、状態が変化した際は、随時、見直しを行なっている。	○	利用者の体調の変化等、日誌や口頭にて伝達し、よりよい介護が行えるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に食事、水分量、排泄等、日々の生活の様子、本人が発した言葉等を、記録し、日勤、夜勤帯の申し送り時に毎日、行い職員間の情報共有を徹底している。	○	言動により心の動きを読みとり穏やかな生活へとつなげていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の事業所がある事により柔軟に対応出来ている。医療連携体制をとり、入居者1人ひとりを主体に入院の回避、早期退院の支援等を行っている。	○	更なる向上に努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の開催、必要に応じて理事長、管理者が協力体制をとり、地域で暮らし続けられる様にしている。	○	地域資源を活かし、利用者が生き生きと活動が出来る様に支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネジャー連絡協議会に属し、又、居宅介護支援事業所に勤務していた関係もあり、常にコンタクトは、とれる状態である。	○	他のケアマネジャーとも連絡、相談出来る様に関係を継続していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	多目的にサービス事業所が併設している関係もあり、常に地域包括支援センターとは、連携がとれている。	○	利用者のみならず、地域の方々にも関わってきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制により、看護師が本人及び家族等とコンタクトをとり、理事長、管理者と共に話し合い支援している。	○	主治医も開設当時より往診に来ている。利用者にとっても馴染みの方なので、関係を継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医あるいは、総合病院がある。通院時に相談したり電話でのやりとりを随時、行い支援している。	○	これからも関係を継続していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月2回の主治医による往診時、通院時、併設のサービス事業所の看護師に気軽に相談を行なっている。	○	小さな異変も見逃さず医師、看護師に相談していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医に情報提供はもちろんの事、理事長自らお見舞いに出向き、日々の情報交換を行い早期退院に努め常に連携している。	○	主治医との連携を深め早期退院に努めたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制で書類をとりかわす際に家族の意向を確認し、その度、かかりつけ医とも話し合い全員で方針を共有している。	○	利用者の状態に合わせて、環境等も早期に対応していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を第1に主治医と職員が連携をとり安心して終末期が迎えられる様に取り組んでいる。	○	看護師との連携も含め終末期のケアを行っていききたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化があっても最少限にくい止められる様、訪問により情報提供を行いダメージを防ぐ事に努めている。	○	ダメージを防ぐ様、本人と向き合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修会に出席し、ミーティングの際、報告する事により、浸透させ、徹底させている。	○ 職員同士、気軽に注意出来る関係作りを行い、改善していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	発語が出来ない方でも、しぐさや表情を汲み取り本人に合わせた説明を行い、本人の意志を主体にしている。	○ 本人のしぐさを見逃さず伝えたい事を汲み取ってきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりが主人公となり、朝寝坊したりジュースを買いに行ったり、足が強い方は、併設の施設迄、ジュースを買いに行ったりと、さまざまである。	○ 今後も本人の希望に添った対応を行ってきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	生活習慣を大事にし、行事等、外出の際は、化粧やドレスアップで楽しんでもらえる様、取り組んでいる。理容院は、本人の望む髪型にされている。	○ おしゃれをする事により、他者から褒められ、会話が弾むので、今後も普段より、おしゃれを楽しんでいただきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの力を発揮出来る様、準備から片付け迄、職員と一緒に楽しいひと時を過ごしている。	○ 1人ひとりの体調を考慮し、食事形態を変え、楽しく美味しく食べていただく様に行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	1人ひとりの嗜好物を把握し、外出の際は、好みの飲み物、おやつを買って楽しんだり、おやつ作りも好みの物で楽しんでもらっている。	○ 健康状態に合わせておやつを量を変え、楽しんでいただいている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日々の生活の中でもデータをとり、誘導し、極力使用を減らしている。パットの使い方もそれぞれであり、自尊心を傷つけない様、配慮している。	○	各自の排泄パターンにより声かけを行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴出来る様にしている。	○	利用者1人ひとりが楽しんで入っていただける様に支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファ、畳の間、居室それぞれ状況に応じて安心してゆっくり眠れる様、支援している。	○	生活のリズムが乱れない程度に休息の時間を提供していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、掃除、川柳、色塗り、書道、歌、おやつ作り等、利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。	○	1人ひとりに合った役割を作り、楽しみ事を充実させていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解の下、小額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも外出、行事の際は、自分で払っていただける様にお金を手渡ししている。	○	外出の機会をもっと増やしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	要望があればその都度、対応している。	○	日々の会話の中で、要望を聞き、戸外へ出れるように対応していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	事業所として案はあるが、家族への協力依頼は、一部、行なっている。	○	利用者の気持ちを代弁し、家族に伝えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば応じている。	○	手紙等、代筆している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問出来る様、明るく穏やかな雰囲気でき兼ねなく居室で過ごしてもらっている。	○	共同空間も居心地が良い様に随時、改善していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティングで事例を取り上げた勉強会を行いその日のケアを振り返り自覚し、再認識している。	○	朝のミーティング時でもケアを振り返り、ケアの質を高めていきたい。身体拘束の研修会にも積極的に参加していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけていない見守りを徹底し、自由にして頂いている。	○	夜間、センサー、見守りで極力、拘束をさけている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	台所、談話室には、常に職員がいる環境を作り職員同士で確認を徹底している。	○	所在確認する事により、安全の確保に努めたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況により、注意を促していく程度の物は、置いておくとか、ケースに応じた対応をしている。	○	利用者の能力を見極め、出来るだけ物を排除しない方向で対応していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故等、発生した場合、報告書を作り、再発防止に努め、話し合っている。その際、連絡帳にも記録し、全職員で確認している。	○	職員間で話し合う事は、もちろんの事、互いに声をかけあって事故防止に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を実施し、全ての職員が対応出来る様にしている。	○	併設施設との連携を深め、事故発生の対応が出来る様にしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回、利用者と共に避難訓練を行なっている。地域協力体制は出来ている。消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を定期的に行っている。	○	今後も訓練を真剣に取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況により、家族に説明し職員間において対応策をミーティング、申し送り時等に話し合っている。	○	家族、職員間で話し合い、対応等を考えていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は、把握しており少しでも食欲や顔色等の変化が見られたらバイタルチェックを行い記録をつけている。状況により看護師に報告、医療につなげている。	○	1日を通して、体調の変化がある方に対しては、医師、看護師、管理者に相談し、早期対応につなげたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し薬の内容等、把握している。職員管理の下、服薬出来る様、支援し、病状の変化も確認している。	○	利用者、1人1人の名前を書いた箱に薬を朝、昼、夕、管理しており服薬の際は、誤薬防止に努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分チェック表、排便チェック表に毎日、随時、記録し、全職員が把握している。	○	水分が足りない時は、甘い飲み物を作り水分摂取を勧めている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけ見守り歯磨き、お茶でのうがいを促し、確認を取っている。	○	安易に支援せず、本人の能力を引き出した上で、見守り声かけを中心とした介助を行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し職員が情報を共有している。	○	食事の偏りが無い様、1人ひとり、確認を行い、対応していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ワクチンの接種実施し、毎食前の手洗いうがいを励行している。(外出後も)布団類の日光消毒も天気の良い日には行なっている。	○	下痢、嘔吐物を扱う際は、徹底して手袋を使い、感染予防に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板と布巾等は、洗剤で洗い熱湯消毒し、天気が良い日は、日光消毒を行っている。定期的にハイターにつけ殺菌している。冷蔵庫の整理も定期的に行い新鮮な食材管理に努めている。	○	冷蔵庫に入っている食品の賞味期限を常に確認し、安全な食材で調理している。調理用具の衛生管理も心がけていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、花壇があり、またアットホームな表札を掲げている。日当たりが良く部屋が明るい為、温かみがある作りになっている。	○	外部の方の意見を聞き、玄関周りの工夫をしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の野菜を利用者と共に生け空間にそれとなく飾り、米、茶碗を洗う音、おかずの炊ける匂い等、又、匂を先どりし、五感や季節感を取り入れる工夫をしている。	○	玄関やトイレ、食堂に生け花を飾り、季節感を取り入れている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったり座れる椅子、ベンチ、ソファー、畳があり、日光が良くあたる時は、畳にてうたた寝をされたり、ソファーにて本を読まれたり、テレビを観たりと個人個人で自由に過ごせれている。	○	これからも1人ひとりが、くつろげる環境作りを行ってきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台、仏壇等、持ち込まれ安心して過ごせる場となっている。	○	本人が好きな物、本、娯楽用品等を取り入れ、快適に過ごされる様になっている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	早朝一番に換気を行い、衣類、エアコン等により、温度調節をしている。オゾンが設置されており、脱臭、殺菌効果がある。	○	利用者の体調に合わせて、換気も適度に取り組んでいきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺り等の設置は、完備されている。お風呂場には、シャワーチェア、滑り止めマットがある。	○	1人ひとりに合わせて環境を整え、対応していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「どうしたら本人の力が引き出されるか」「どうしたら分かりやすいか」を職員同志で話し合い不安を取り除き自立支援に結びつく工夫をしている。	○	より自立しやすい環境作りに取り組んでいる。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関、ベランダにプランターを置き、暖かい日には、一緒に水撒きを行ったり、ベランダ掃除に取り組んでいる。洗濯物は、一緒に干したりたたんだりしている。	○	避難通路外に花を増やす様にしている。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者同士、語り合える楽しい空間が保たれ、つくられている。1人が皆の事を、皆が1人の事を考え、生活している。